

報告 生活クラブでんき学習会

10月7日(土)

講師：環境ジャーナリスト 高橋真樹氏

< どうする？電気代高騰と気候変動！

再エネ&省エネでエコな暮らしを聞いてみよう >

「省エネ=我慢」そう感じていませんか？「電気を使わない」ではなく「気がついたら電気を使っていない」に変わる省エネ生活のヒントが、たくさんある学習会でした。合言葉は、断熱と通気性。二重サッシや家具の配置など直ぐにできる「省エネ」がありました。

電気の構成について考える時、気になるのは、「安全」です。安全で CO2 削減も実現できる生活クラブでんきはどちらも解決の一助となります。



断熱 通気性

報告 牛肉学習会・北海道チクレン農業協同組合連合会

9月13日(水) 葉山センター

<最近、生活クラブの牛肉、食べていますか？>

逗葉コモンズ・藤沢北コモンズの F 委員会共催で牛肉学習会を開催しました。組合員がおおぜい集まって調理試食することは4年ぶりのことでした。

北海道チクレンの牛肉は、北海道の酪農家で産まれた雄牛を食肉用として育て命を私たちに食べ切る取り組みです。食べきる約束をして餌や投薬にも独自基準を設け、「安心・安全」な飼育で行っています。

今、年間計画分を食べ切れていません。組合員一人ひとりが年に牛肉を「3パック」注文することで、私たちの牛肉を食べ切ることができます。ご馳走を作る機会が増える季節になります。牛肉を食べて、持続可能な牛肉生産につなげていきましょう。



しっかり学んで、お肉を試食！

編集後記 広報担当になり2年目。広報は奥が深いと日々感じています。校正は読者のみなさんにわかりやすい表現にできるよう考えて意見を出しています。普段はインスタ担当です。これからも広報湘南、紙も SNS も、よろしくお願いします。

組合員各位

2024年1月5日  
湘南生活クラブ生活協同組合  
理事長 飯田厚子

公告

1. 第21回湘南生活クラブ生活協同組合通常総代会の開催  
下記のとおり第21回湘南生活クラブ生活協同組合通常総代会を開催いたします。

記

日時：2024年5月31日(金) 10時～12時30分  
場所：鎌倉芸術館 小ホール

予定議案：2023年度 活動・事業報告の承認  
2023年度 事業報告書及び決算関係書類の承認  
監査報告  
2024年度 活動方針及び事業計画の決定  
予算の決定  
役員報酬限度額の決定  
役員選挙  
特別アピール  
その他

〔総代の公募〕

総代会はコモンズ・デポーより選出された200名の総代によって開催されます。総代は湘南生活クラブ生活協同組合の最高決議機関である総代会に出席し、組合員の代表として年間活動方針を審議し、決定する重要な役目をもちます。任期は1年です。

\*立候補又は推薦される方は2月2日(金)までに、総代選挙管理委員会まで立候補届けを提出してください。各区分選挙区で民主的な手続きを経て、選出されることとなります。区分選挙区は鎌倉コモンズ、逗葉コモンズ、よすかコモンズ、藤沢北コモンズ、湘南ふじさわコモンズ、茅ヶ崎コモンズ、コモンズひらつか、コモンズなかぐん、城下町コモンズ、コモンズはだの、コモンズ足柄、ちがさきデポー、らいふたうんデポー、鎌倉デポー、ひらつか西海岸デポーとなります。

2. 役員選挙の実施

第21回湘南生活クラブ生活協同組合通常総代会にて、下記の区分選挙区における役員選挙を実施します。役員任期は第23回通常総代会までとなります。

- ・コモンズ区分選挙区 理事12名 監事2名
- ・デポー区分選挙区 理事5名 監事2名
- ・全体区 理事5名

\*役員に立候補される方は、4月12日(金)までに下記の役員選考委員会事務局まで立候補届けを提出してください。  
役員選考委員会事務局：湘南生活クラブ生協・ちがさきセンター (0467-53-2211)

【理事会報告】

第5回定例理事会 (10月6日)

- ・2024年度策定第3次討議  
＜基本方針・組織活動方針・FEC総括＞

第6回定例理事会 (11月8日)

- ・2023年度中間監査報告
- ・2024年度策定第5次討議

第2回臨時理事会 (11月27日)

- ・2024年度活動計画策定資料最終確認と承認

みなし自由脱退報告

定款第10条(自由脱退)に基づき、みなし自由脱退者2名を確定し、理事会で承認しました。確定者のリストは、湘南生活クラブちがさきセンターに公示します。

※定款第10条では、「住所の変更届を2年間行わなかったときは脱退の予告があったもの」とみなし、所在確認を定期的に行っても所在不明で連絡が取れない組合員に対し、理事会において「みなし自由脱退」の手続きを行うことを規定しています。

# 湘南

サステイナブルなひと、  
生活クラブ  
2024.1月号

鎌倉・逗葉・よすか・藤沢北・湘南ふじさわ・茅ヶ崎・ひらつか・ながくん・城下町・はだの・足柄・ちがさき・らいふたうん・鎌倉D・ひらつか西海岸

## <2024年度湘南生活クラブの未来は？> ～新春座談会～

昨年の湘南総代会で理事になった新任理事にこれまでの活動を振り返り、気付きや今後挑戦したいことについて話してもらいました。飯田理事長には、座談会でのお話から2024年度の湘南生活クラブへの思いを話してもらいました。



理事に就任するまでの理事・監事について、「ベテラン、聞いたらなんでも答えてくれる」「組合員の代表、理事はよく動き、良くしゃべる。」などのイメージを感じていた新任の皆さん。理事・監事として半年務めてきて「想像以上に忙しい」や「大変だけど楽しいし、みんな仲がよいな」と感じているようです。

### ●2024年度理事として挑戦してみたいことはどんなことですか？

吉田：自分の地域を含めて理事として活動するときも地域を意識したい。

山村：新規組合員に対する活動。

小山：生産者交流会や学習会などで生産者や消費材のことをもっと勉強して語れるようになりたい！

大場：脱退防止の活動についてです。

高橋：若い方々へのアピール！

### ●湘南理事会メンバーとしてやってみたいことはありますか？

高橋：楽しい活動ができることをどうやって人に伝えていけるのか。

小山：生活クラブのある地域と姉妹地域になりお互い交流を深める。東北・岩手に興味があります。

吉田：生活クラブをもっと知りたいですし、アソシエーション活動や「生活クラブステーションはだの」などについてももっと知ってもらえるようにしていきたい。

山村：なんだかんだといっても湘南はがんばっているのだから、分割や、拡大をすすめて、神奈川一番をめざしたい。

大場：神奈川の組合員数一番をめざしましょう。

意欲的なやりとりや今後の展望が聞けました。

### ●飯田さんは湘南の未来についてどう考えますか？

飯田：地域に仲間を増やす「拡大」では神奈川ナンバーワンという壮大な目標をもらったのは嬉しいですね。組合員が増えることで生活クラブを道具にしてみてもっと地域で色んなことができる可能性がひろがります。そして、湘南の中でも「ステーションはだの」をはじめとする生活クラブの活動ツールが展開されている場所がたくさんあります。仲間を増やしながらか、そういった多種多様な場所が湘南の中のあちこちで生まれるといいですね。

実際にさまざまな組合員活動に触れて、理事・監事のみなさんに夢をもってもらいたいです。

山村：はたらつく・ゆがわら、ひらつか、福島宮城でも就労支援の場所を見てきて、自分で現場を見て体感が必要だと思います。

飯田：体験しないとわからないですね。いろんな学習会や参加する機会があったら足を運んでみましょう。湘南での新たな活動挑戦やコモンズ・デポーに話だけでも伝えてみようという感覚が芽生えると思います。そうすることで活動が広がると考えています。これが結局良く動く、良くしゃべる、になるのかな。つながりますね。

小山：自分で興味をもって動くことが大事ですね。

わたしたちの地域・湘南の抱えるさまざまな地域課題にたくさん興味をもちましょう。これを自分事ととらえ、アクションを起こしていきましょう。2024年、気持ちを新たに、生活クラブのツールを活かしてより住み暮らしやすい地域を目指して活動していきましょう。

組織報告

組合員数(10月末現在) 21,113人 (4月期首 20,849人)  
●班 1,302人 ●個配 14,162人 ●デポー 5,458人 ●未組織 191人

世帯当たり利用高(10月) 21,162円 (前年度同月比 100.4%)  
●班 24,564円 ●個配 23,458円 ●デポー 14,396円



《Facebook》



《Instagram》

発行 第179号 2024.1.8 湘南生活クラブ理事会 発行責任：飯田厚子 編集責任：中村園子

みなさまからの声が、広報湘南の進化につながります。お気軽にご感想などお寄せください。☎ kohoshonan2019@gmail.com



## <生活クラブの新しい取り組み> ～新たな基金ってなあに？～

生活クラブ福祉たすけあい基金は、2003年に地域の身近なたすけあいの活動を支援する基金として誕生し、身近なたすけあいの活動を支援してきました。この基金の主旨に賛同する組合員が毎月100円の寄付をすることで支えています。

2013年にもっと広く公益性をもって福祉たすけあいの活動を支援していくために公益団体「かながわ生き生き市民基金」を設立し、社会にたすけあい・支え合いを広くひろげることができました。社会に広げることができましたが、地域の身近な活動を支援することの実感がなくなり、生活クラブ福祉たすけあい基金の参加も高まっています。そのためにコモンズ・デポの組合員にとって身近な基金としての見直しを行い、自分たちの地域で活動しているW.Coや団体などに助成をし、湘南エリアの地域づくりをすすめていきます。おおぜいの組合員が新たな基金（仮称）生活クラブまちづくり基金に参加することをめざします。



## <多くの生産者と新しい仲間づくり>

### “生活クラブ秋の大試食会” 新たな食べる仲間が増えました！

11月21日 茅ヶ崎市コミュニティホール  
11月30日 エキマエ大船ビジネスポート

各会場では6つの生産者に協力して頂き、おススメ消費材を試食しながら、こだわりの消費材の話や生活クラブとの提携の歴史、同じ地域の生産者との連携など、と生活クラブが大事にしていることについてアピールしてもらいました。

2日間で組合員と友人のペア参加が約60組、当日飛び込み参加を含めると100名を超える参加があり各会場は熱気に包まれ、新たに約30人の方が新しい仲間になりました。

参加者からは「おいしい！」「これならアレルギーのある家族にもすすめられる」という声がかかれ、組合員からは「今まで食べたことがなかったけど次は買います！」と交流を楽しむ様子がありました。生産者からも「久しぶりにおおぜいの皆さんと対面で交流する場面を持ち、しっかり話をしても良かった。」という感想を頂きました。これからも消費材や生活クラブの活動やしくみを伝え、仲間を増やす活動を続けていきます。

茅ヶ崎会場



大船会場



## 湘南機関会議 シリーズ③

湘南生活クラブのすべての会議は、討議決定の場であり、共に学ぶ場面となるように提案や会議をすすめています。今年は湘南の会議の様子をシリーズ化してご紹介しています。今回は第3弾！湘南E推進会議の紹介です。

### 《湘南E推進会議》

E推進会議では環境に負荷をかけない暮らしや持続可能な社会実現をテーマに、生活クラブならではのグリーンシステムの実践、石けんの利用の推進などを行っています。会議中は省エネや再生可能エネルギーのこと、環境問題の話題などに触れる機会も多く、さまざまな意見が活発に話し合われ、E委員長同士の情報共有の場にもなっています。学習会を企画したり、生活クラブでんきのことを伝えるための『エコライフカフェ』の開催など、私たちの活動に共感し、一緒に活動してくれる人、語れる人を増やすための学びの場づくりをすすめています。



生活クラブでんき

## <毎月の活動費、どう使われているか知っていますか？> ～コモンズ・デポ大会に行ってみよう～

活動費は、運営・専門委員が開催する企画や試食会などに活用しています。その内容を知ることができるのが、コモンズ・デポ大会です。コモンズ・デポ大会は、組合員から委任された運営委員会が1年間の活動・決算報告を行い、次年度の活動方針と活動費の使い方を提案し、組合員が決議する、コモンズ・デポにとって最も大切な決議機関です。

コモンズ・デポの活動について決めるのはそこに所属する組合員で、全員が1票を持っています。大会では提案内容を聞き、意見交換をして、承認するかどうか、意思を表明することができます。

大会は、2月下旬から3月上旬にかけて開催する予定で、日時については各コモンズ・デポの運営委員会より案内があります。組合員同士誘いあって出席しましょう。大会の開催が近くなりましたら大会議案書も配付されます。大会に議案書は必須です。コモンズ・デポ運営委員会が、おおくの組合員に会えることを楽しみに待っています。



## 2023年度 中間監査報告概要

(2023年4月1日～9月30日)

- ・決算関係書類は財産及び損益の状況を適正に表示し、現金及び預金、施設は適切に管理されています。供給高は、計画比94.8%、前期比98.7%となり、計画に届かず厳しい状況です。事業経費は計画通りに推移しています。
- ・班個の拡大は117名、達成率が36.4%でした。デポは拡大88名で、リニューアルを控えた鎌倉デポと、ひらつか西海岸デポが牽引しています。供給は、班個で計画比93.6%、前年比97.7%と目標に達していません。デポは、合計で計画達成したことを評価します。
- ・運営委員長、FEC委員長が不在となっている組織があります。参加を促せる活動を行うために、何をすべきか検討していく必要があります。
- ・組合員集会では、組合員と直接会うことで、クリ正実行委員や託児ケア者など新たな活動参加につながったことは成果です。
- ・事務局は、地域生協の中での実績は高い方ですが、拡大率は0.8%と厳しい状況です。脱退が予測を大きく上回っているため、脱退を食い止める対策の強化を期待します。

## 藤沢市での新たな拠点づくり③

新たな拠点の周辺には、地域に人が集って気軽に食事をする場所がありません。1月に行った地域の組合員とのワークショップや6月に開催した野菜市で行ったアンケートでも人が集え、コミュニティをひろげる場としてのレストランの希望がありました。それを踏まえ、地域の人が働ける場として、食の事業の創出をめざしていきます。働いてみたいメンバーが事業運営に参加するワーカーズ・コレクティブを形成して進めていきます。どんなレストランにしたいかを議論しながら、具体構想を実現していきます。

また拠点では、多世代交流ができる場所をめざした多目的スペースを設置します。多目的スペースでは地域の人々が主体的に関わることをめざし、親子ひろば、学習支援や高齢者の居場所など、具体的な内容を検討しながらすすめていきます。